女川民報

日本共産党女川町委員会の見解と政策を紹介します。

2012年
1月号

日本共産党
女川町委員会

高野　博
53 - 3614
阿部律子
54-2562
ご意見・ご要望などをお寄せください

原発ゼロの社会をめざして

手を取り合って希望ある年に

女川町議　高野　博
同　阿部　律子

女川原発の再稼働を許さない運動を広めよう！

3月11日の大震災、原発震災以来事態は大きく変わりました。放射能の汚染の深刻さ、影響の広がりは計り知れず、「もう原発は動かさないでほしい」という声が満ち満ちています。大崎市議会をはじめ美里町、名取市、登米市、東松島市などの各議会で脱原発を求める意見書が次々と議決されています。女川町でも大きな変化が起きはじめています。

住み続けたい町・女川　原発のない町・女川を

今年は女川町の基本的在り方が問われる年です。

膨大な復興計画の予算を用いて、土地は造成したが人がいなくなった町では困ります。

放射能の恐怖におびえることのない女川町、危険な原発のない町・女川をめざします。福島原発の事故の検証や、まともな規制機関もなく、放射能の最終処分の見通しもありません。再稼働は絶対に許せません。ご一緒にがんばりましょう。

日本共産党目黒地区委員会より魚市場にフォークリフトの支援

12月15日、女川魚市場にフォークリフト一台が東京の共産党中野地区委員会から贈られ、地区委員長と岩永しほ子区会議員さんらが届けてくれました。三浦県議、高野、阿部町議も立ち会いました。

孤独死を防ぐために緊急ブザーの設置を

12月26日、高野博、阿部律子両町議は、須田町長に「孤独死を防ぐため緊急ブザーの設置を検討してほしい」と要望書を提出しました。

町長も「検討させます」と応じました。ぜひ実現して欲しいものです。

十二月議会で決まった主なこと

①マリンパル女川事業協同組合活動再開助成金　840万円
②女川高校グランド仮設商店街インフラ整備事業補助金　2850万円
③一部損壊への工事補助　3200万円
④ガレキ処理費　21億円の追加
⑤地デジ対策工事請負契約締結（行政報告）

住宅用地、第二多目的から陸上競技場に変更を認める

12月22日、震災復興対策特別委員会が開催されました。

9月議会で復興計画の一部が「運動公園を残し、第二多目的運動場を住宅地にすることを検討する」と修正議決されましたが、「第二多目でなく、陸上競技場を住宅用地に変更したい」との町当局案を検討、一日も早い復興計画の実現を求める立場で、変更を了承しました。

高橋千鶴子のメッセージ

「『被災者が主役』の復興をめざして」

2011年は忘れられない年になりました。

大震災、津波、そして原発事故・・・。人生観が変わるような衝撃と哀しみに、自問自答しながら、被災地と国会を結んで無我夢中で走ってきました。57回の国会質問のうち、震災、原発関係だけで41回の国会質問。その一つひとつに被災地の思いを込め、前進もありました。

被災者のみなさんの哀しみは癒えることはないと思いますが、少しでも前を向いて生きる力がわくように、これからも高野博議員や阿部律子議員と力を合わせて、全力でがんばります。

衆議院議員
高橋千鶴子

一部損壊に補助、予算3200万円計上

12月定例会

畳・給湯器・ボイラーなどの取り替えも対象に

12月定例議会は12月13日から15日まで3日間開催されました

阿部律子町議の一般質問

台風十五号被害者に救済を

9月21日発生の台風十五号では甚大な被害にみまわれました。万石浦沿岸部では3月11日以来の地盤沈下に加えて、記録的な豪雨と満潮、台風による海面膨張が重なり防潮堤を超え一面海となり、多くの民家が床上浸水になりました。

また土砂災害や河川の氾濫により、山側の民家も床上浸水、大規模半壊、全壊の被害を受けました。

東日本大震災では半壊以上の世帯に対して様々な支援策があるのに、なぜ同様の支援策がないのかと、多くの方々からいらだちや怒りの声が聴かれます。ぜひ独自の支援策を講じるべきではないですか。

（建設課長の答弁）一部損壊に台風十五号災害も含めることとし、畳、給湯器、ボイラー等の取り換えも対象とします。他に擁壁・石垣・塀など対象を広げました。

スピード感を持った復旧・復興を

復興まちづくりアンケートの結果によると、町外への移住希望世帯が中心部11・4％、離半島部13・7％であり、一割以上がこの町から出ていくことになれば大変な状況であり、なんとしても食い止めなければなりません。特に商店再開への県独自の支援制度をしっかり周知すべきです。また、自営業再開のためにも、早めに居住地や商店街の見通しを示すべきではありませんか。

（商工観光課長の答弁）広報等で周知します。また、一月より住民説明会でまちづくり計画を示していきます。

町外に住む被災者への情報や支援物資の提供は他市町村と比べあまりに少ないと訴えがあります。

これまでの安住町政は「町外に出ていくものは出ていけ」と言わんばかりの行政でした。

人口の流出をこれ以上出さないために、仮設住宅の増設や一日も早い災害復興公営住宅の建設を行うべきとただしました。

（町当局の答弁）石巻は途中から基準を変えたと思います。安住前町長は早く復興計画を出そうと努力されたと思います。

風除室は玄関が引き戸の所はできるがドアの所は問題があります。

高野博町議の一般質問

被災者に寄り添った行政を

仮設住宅の女川町の入所基準は2人で1部屋、4人で2部屋です。前者は84世帯、後者は121世帯になっています。

石巻市や東松島市の基準は1人は1部屋、2人～3人は2部屋、4人以上は3部屋です。

女川の基準はあまりに劣悪です。

さらに障害を持つ方々が入っているスロープのついた仮設住宅には寒さ対策の風除室がありません。石巻市では下の写真の通り、風除室を設置しているのです。

35世帯が今でも女川町に帰ってきたいというのに仮設住宅が用意されていません。

石巻市三反走仮設住宅（河北）

スロープのある仮設住宅でも風除室が出来ていました。

ひろば

▼「明けない夜はない」。この厳しい現実もみんなで力をあわせ、町民の暮らしと生業を復旧復興させなければと思います▼これまで寄せられた数々の全国からのご支援に応えるためにも▼まず雇用の確保です。多くの人の生活が成り立ちません。この女川で仕事ができるよう、行政と業界、町民が力を合わせられるよう頑張りたい▼春になれば桜の花が咲きます。日本共産党女川町後援会は日帰りのバス旅行を今年も行います▼本当に楽しいバス旅行です。これまで15年以上続いてきました。秋田の角館や山形の米沢、福島の花見山、岩手の北上展勝地など▼さて今年はどこに。皆さんのアイデアをお願いします▼楽しみながら笑顔で消費税増税を吹っ飛ばしましょう